

令和6年度 学校関係者評価 学校自己評価の結果について

【1】評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。 (A:とても思う B:思う C:あまり思わない D:まったく思わない E:わからない)

【2】全体的な傾向

児童・保護者・職員とも、肯定的評価の割合が多く満足できる状態だと言えます。その上で、児童が安心して学校生活を送れるよう学級及び学校全体での取組が大切であると感じています。

〈児童において〉

【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、17項目中16項目であり、その内、2項目で100%、10項目で90%以上の肯定的評価で、全体的には良好な結果が得られています。しかし、「⑭わたしは、本を読んでいる。」においては、肯定的評価が74%と、80%を下回っています。高学年において否定的評価が高い傾向にあります。

また、【C】【D】評価に焦点を当ててみると、その割合が比較的高かったのは、「⑧わたしは、家の人に学校のようすを話している。」「⑩わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」「⑯わたしは、早寝早起きをしている。」の3項目です。

〈保護者において〉

12項目全て【A】【B】の合計が80%を超えています。さらに、その内9項目が90%を超える肯定的な評価になっており、満足できる状況にあると判断できます。一方で【E】「わからない」という回答は、昨年度調査とほぼ同等の数値となっています。特に「⑤お子さんには、困ったことがあったときに相談できる友だちがいますか。」では、【E】「わからない」という回答が高かったです。肯定したり、否定したりするだけの材料(情報)を持っていないと推察します。保護者の方から関わりを持つとする意識も必要ですが、子どもから学校の出来事や友人の話題が出たり、学校から情報を提供したりすることが必要であると思います。

〈職員において〉

全ての項目で【A】【B】評価の合計が80%以上となっています。その内【A】評価だけで80%以上のものは6項目にのぼり、「十分できている」と評価できるといえます。また、自由記述を見てみると、さらに良いものを目指すための前向きな意見が書かれています。これらを総合的に判断すると、全体的に比較的良好な状況にあると言えます。

【3】個別の分析

(1) 【確かな学力】にかかわって

令和4年度より始まった橿形中学校区小中一貫教育が「かかわり・対話・学び合い」をキーワードとして全教職員が同じ方向性をもって教育活動が行われています。今年度の校内研でも『学び合い』を取り入れた授業づくりに取り組み、全学年において授業実践と研究授業を行い、その後の授業研究会でも活発な意見交換が出されました。『学び合い』について考え、その授業方法について研究を進めることができたと考えます。さらなる授業改善に取り組み、学校教育目標の実現を図っていききたいと思います。



児童の回答結果を見てみますと、「㉠わたしは、学校の授業がわかる。」「㉡わたしは、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果は、95%以上の児童が肯定的な評価でした。「聞くこと」が理解に繋がっていると考えられます。しかし、「㉢わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」では、他の項目に比べて数字が落ちています。安心して学習し、考えが伝えられる学級づくりに取り組み、児童が取り残されることのない学校、学級づくりを目指していく必要があります。



保護者の回答結果を見ると、「㉣お子さんは、授業の内容が分かっていますか。」の項目に80%以上の肯定的な評価を得ています。このことは、学校での学習理解にある程度満足できているだろうと考えられる結果となっています。但し、児童の肯定的な回答が97%となっているものと比べると、ギャップがあります。「わかる授業」に向けて、更なる授業改善を図っていく必要があります。今後も家庭と連携し、協力をいただきながら、学習した内容の定着や発展的な学習につなげられるように取り組み、学力向上の一助となるようにしていきたいと考えます。

(2) 【豊かな心】にかかわって（いじめに対する取り組みを含む）



“いじめ”に関わっては、7件が報告されています。担任の適切な働きかけで大きなトラブルには至っていません。職員が生徒指導の基本を忠実に実践し対応しているからだと推察できます。聞き取りに際しては、相互に対して共感的に児童に寄り添いながら行い、公正な立場で状況を把握し指導を行ってまいりました。その言動や出来事が、児童にとっては大きなものだったことを認めながら、今後の人間関係が良好なものになるよう働きかけを行っています。今後も「未然防止」「早期発見」「早期解決」に重点に置き、児童の様子に注視しながら軽微なものも見逃さず、良好な人間関係づくりに努め、誰もが気持ちよく学校生活が送れるようにしていく所存です。「西小は大きな家族」という理念の下、今後も、全職員がどの児童に対しても温かい言葉かけで信頼関係を築き、心豊かでたくましい児童の育成に取り組んでいきます。

橿形地区小中学校で取り組んでいる「あいさつ」「無言清掃」「靴そろえ」は、その肯定率からみても定着している様子がわかります。「㉤わたしは、自分からあいさつしている。」については、肯定的評価が100%ととても高い結果になっています。日頃から、高学年を中心にして挨拶の声が聞かれ、それが下級生に浸透していると考えられます。児童会活動での挨拶運動の成果も表れている結果でもあります。また、小中一貫の取組として1学期と2学期に1回ずつ、2日間卒業した先輩たちと一緒に「朝の挨拶運動」を行いました。その中で、2学期の挨拶運動は「橿形地区一斉あいさつ運動」との合同取組を行い、児童と中学生、地域の大人と一緒にあいさつ運動をする姿がありました。その姿に良い影響を与えられていると思います。

「㉥わたしは、本を読んでいる。」の肯定的評価が80%を下回りました。高学年において否定的な評価が高い傾向にあります。高学年は児童会や委員会など休み時間での活動が多く、また外で体を動かすことが好きな児童も多いです。司書と図書委員を中心に放送や読書週間の呼びかけ等を行い、工夫して本に親しむ取り組みを進めていました。読書月間では、校長はじめ職員やボランティア、図書委員による読み聞かせの機

会をつくったり、全校が集まって図書集会を行ったりして読書に意識が向くよう取り組みました。また、6年生は県立図書館主催の『贈りたい本大賞』へ応募し、今回学校賞をいただきました。本に親しむことで、知識だけでなく心も豊かにしてくれます。児童に興味を持てるよう、児童が主体的に読書活動に取り組めるよう学校全体でも考えていきたいと思います。

(3) 【健やかな身体】にかかわって

元気に学校生活を送るためには、“早寝”“早起き”“朝ごはん”が必要不可欠です。元気に学校生活を送るために、家庭で朝食を欠かさず準備し、児童もしっかり食べてきていることが結果からわかります。しかし、“早寝”“早起き”に関しては、十分な睡眠が取れていない児童がいることがわかります。高学年になるにつれてその傾向が高くなってきています。学校として取り組んできましたが十分ではなかったと言えます。児童に自覚を促し、家庭に協力を求めていくことで改善を図らなければならない項目です。児童の学校生活に支障がないようにするだけでなく、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げてもらうためにも家庭と学校の連携が必要になってきます。お便りや部会などでも協力を伝えていきたいと思います。



汗いっぱいになって体を動かすことを楽しんでいる児童、室内で過ごすことが多い児童と休み時間の過ごし方は本人の意思ですが、体力づくりの面からみると体を動かすことの大切さにも目を向けていかなければなりません。新体力テストの結果から、多くの種目で全国平均を上回っています。一方で、持久力、筋力を必要とする運動において、全国平均を下回り、本校の課題と言えます。今年度は児童会や体育委員会による全校での体を動かす取り組みを行ったり、なわとび検定を実施して、運動への意欲づけと機会確保につなげたりしています。今後も健やかな体づくりにも目を向けて取り組んでいく必要があります。

(4) 【学校・家庭・地域との連携】にかかわって



教育活動を進めるには、家庭や地域との連携は必要不可欠です。このことに関わる質問について、保護者からは90%以上の肯定的評価を得られており、連携をとった教育活動がなされていると判断できます。また、「⑦学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。」という項目では、95%以上の肯定的評価を得られています。児童の成長を見守り、児童が安心して学校生活を送れるようにするために、学校は、家庭との距離が近くなるような関わり方をしていく必要があると考えます。今後も、家庭との連絡、相談、情報提供等を十分に行い、深い信頼関係が結ばれるよう努めたいと思います。それには、学校からの情報発信は必要不可欠です。児童の学校での様子や教師の思いが伝えられ、理解や共感してもらえることで信頼を得られると考えております。担任を含め様々な職員が学校の様子や思いを知らせるための“お便り”や家庭への連絡など、家庭との連携が深められるように取り組んでいます。“信頼される学校”づくりのために、より充実した内容を周知していけるように今後も取り組んでまいります。

また、“地域とともにある学校”にするために、地域の人的資源や物的資源を活用し学習活動を進めています。西小学校は地域に支えられている学校です。地域を大切に考え、地域に関わってもらいながら教育活動を進めることを目指しています。そのような教育活動ができていくことに誇りに感じているところです。これは、児童においても地域に誇りを持つことに一役買っています。「⑩地域の人（低学年：おうちの人）から教えてもらった授業は楽しかった。」では、児童の肯定的評価は100%となっています。地域の方や保護者が講師（協力者）となり進められる授業において、児童の学習意欲が高いことを示しています。今後も地域と

共に歩んでいけるよう、特色ある西小学校の学習活動として継続できるようにしたいと考えています。

(5) 【情報端末】にかかわって



携帯電話、スマートフォンなどの所有率は全校で 64.5%となり、ほぼ半数だった昨年度から数値は上がっています。社会環境や家庭での考え方により、これから先、さらに増えてくると思われます。また、所有している中で、利用ルールが決められているのは 75.6%であり、4分の1は、児童自身の意識では“ルールなし”で使用していることがわかります。今年度、高学年児童と保護者を対象に「ほっと！ネットセミナー」を実施し、SNS上のトラブルや家庭でのルールづくりについて学習する機会を持ちました。また、児童の発達段階

において情報モラル、情報リテラシーを身につける指導を行っています。学校の Chromebook（タブレット端末）を含め、道具として学習用具の一つとして正しく使用できるように学校でも指導するとともに、家庭にも積極的に協力をお願いしていきます。

(6) その他（自由記述欄に関わって）

保護者自由記述に関わって、児童、保護者からの提出物の管理、意見、要望等への早期対応に努めることを職員全員で確認しました。些細なことであっても、管理職や教務への連絡、報告をして、学校全体として対応していきます。合わせて、児童、保護者に関わる個人情報の管理も徹底していきます。

職員自由記述に関わって、「児童主体となる」教育活動の推進を図っていききたいと思います。5年生総合で取り組んだ残菜減量の呼びかけにより、他学年においても意識が広がることとなりました。子どもたち自身に考えさせること、そこから考えた取組を進めることが効果的であると感じています。また、本校の特色として行っている子どもたちが実際に見て、触って、歩く体験学習、地域学習の重要性を意識して、今後も実施していきたいと思います。学校、児童に関わるさまざまな問題については、職員間で共有、確認できるように努め、『対話』の目的を意識して学校運営を進められるようにしていきたいと考えます。